

千葉の魅力発信と環境整備

1

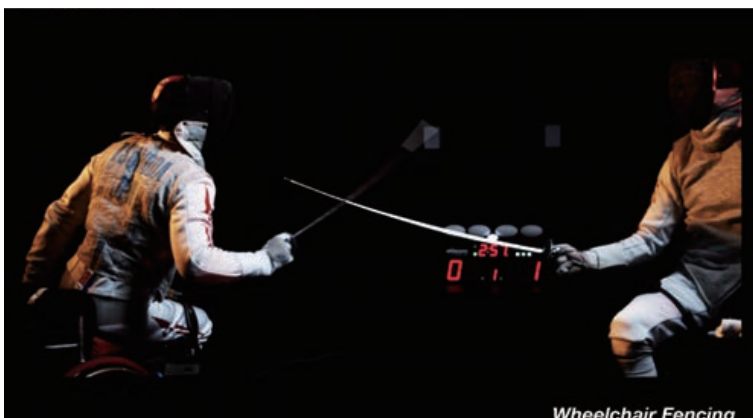
千葉の魅力発信と地域振興

千葉県は、2017（平成29）年に総合計画「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」を策定し、「千葉の『宝』を生かした観光立県の推進と移住・定住の促進」を掲げて、県の持つ魅力を十分に生かした魅力的な観光地づくりを進めることとした。また「観光立県ちば推進基本計画」（2019年3月第3次計画策定）では、「繰り返し選ばれる国際観光県CHIBA」の実現を目指して、①地域資源を活用した多様な観光需要への対応、②東京2020オリンピック・パラ

リンピックの開催効果の活用、③成田空港等の交通インフラの積極的な活用、④テクノロジー（ICT、AI技術）を活用した生産性の向上、の4つを重点課題として整理し、多様な主体が連携して「オール千葉」で計画を推進した。

東京2020大会に向けたプロモーション動画の制作

東京2020大会の開催は、国内外の注目が千葉県に集まる絶好の機会であることから、県は2019年



Wheelchair Fencing



「Welcome to CHIBA ~ Welcome to TOKYO 2020 ~」より



「ちばの郷土料理」パンフレット

9月、東京2020大会に向けたプロモーション動画「Welcome to CHIBA ~ Welcome to TOKYO 2020 ~」をYouTubeで公開した。約2分間の動画に、東京2020大会の県内開催8競技や夏季に楽しめる観光地、食べ物や地域の名産品、おもてなしの様子など、魅力あふれる映像を収載。再生回数は大会終了までに120万回を超えた。

「ちばの郷土料理」再発見

千葉県では、オール千葉による「おもてなし」機運の醸成を図る一環として、千葉県ならではの食の魅力をも県内外へPRする「ちばの郷土料理」再発見事業を実施した。

2018年度には、歴史や文化的な背景のある郷土料理や近年創作されたB級グルメ等のリストアップを行い、市町村への照会、有識者会議における検討を経て、「ちばの郷土料理」全511件を基本リストとして取りまとめた。このリストでは、郷土料理を「ご飯・餅」「汁物」「保存食」「惣菜」の4つとし、

料理名や地域名のほか、使用食材、作り方、歴史・由来、利用場面についても掲載している。さらに、リストをもとに外部審査員5人による試食を含む審査を実施し、設定した活用シーンに勧めたい20品を選定してパンフレットを作成した。また2019年度には、ジャンル別に「フォトジェニック」3品、「千葉ならではの」4品、「おみやげ」4品を選定するとともに、外国人観光客にも賞味してもらえるよう英語版のパンフレットも作成した。

千葉県産農林水産物の活用

千葉県では、野菜、果物、魚、米、肉、牛乳などさまざまな農林水産物が生産され、農業産出額（2020年産）は全国4位である。県は、東京2020大会の開催をきっかけに、2018年度と2019年度に県産農林水産物のPRのため「ちばの大地と海の恵み 産地視察会&商談会」を開催し、千葉ブランド水産物である江戸前船橋瞬めすずきの処理技術や三番瀬ホンビノス貝の水揚げ、乳製品やすいか等の



産地視察会（すいか圃場）



ビクトリーブーケづくり体験



WSL QS6000見学会



サーフィンのルールやサーフボードなどについて説明を受ける子どもたち

産地視察会などを実施した。

2019年7月には、1年前カウントダウンイベントの一環としてイオンモール幕張新都心で「みんなで作ろうビクトリーブーケ体験教室」を開催。館山市、南房総市、芝山町等を主な産地とするひまわりなどを用いてブーケづくり体験を行い、全国第2位（2020年産）の産出額を誇る千葉県の花きをPRした。また県は、東京2020大会の会場となる幕張エリアのホテルと連携してロビーなどに県産の花きを飾ることで、訪れる人へのおもてなしの気持ちを表すとともに、県の花きの魅力をアピールした。

長生地域とサーフィンの振興

長生地域の7市町村（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町）と千葉県は、地域振興の取り組みの中で、東京2020大会のサーフィン競技の成功に向けて、地域住民の競技に対する

理解を深めるとともに機運醸成を図るため、日本サーフィン連盟や地元のサーフィン業組合の協力のもと、児童・生徒を対象にサーフィン教室を実施した。

2018年5月には、長生地域の小学生（主に6年生）を対象に、世界トップクラスのサーファーが参加する国際大会「WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN」（p.200参照）の見学会を実施。児童約210人が参加し、競技会場で、一宮町サーフィン業組合の講師から競技の内容やルールに関する説明を受けた後、実際に世界トップレベルのサーフィン競技を観戦し、「波と人が一体化してとてもすごいなと思った。今度はぼくもやってみたいです」「選手が失敗してもあきらめずに、何回も挑戦していたのがカッコよく思えました」などの感想を語り合った。2018年6月から7月にかけては、長生地域の小学校8校（茂原市立鶴枝小学校、茂原市立東部小学校、茂原市立緑ヶ丘小学校、一宮町立東浪見小学校、一

◆ いきいき長生サーフィン体験会



茂原市立緑ヶ丘小学校 (2018年)



長柄町立長柄小学校 (2018年)



長生村立一松小学校 (2021年)



白子町立南白亀小学校 (2019年)



白子町立白濁小学校 (2021年)



一宮町立東浪見小学校 (2019年)

宮町立一宮小学校、白子町立南白亀小学校、長柄町立長柄小学校、長柄町立日吉小学校)の児童約560人が「いきいき長生サーフィン体験会」に参加(翌年度以降も継続)。一宮町サーフィン業組合と白子町サーフィン協会メンバーの協力のもと、小学校のプールで実際にサーフボードに乗り、プロサーファーなどから指導を受け、「興味を持った。サーフショップの体験会にも行ってみたい」「難しかったけど、楽しかった。オリンピックのサーフィンを応援しようと思った」などの感想が寄せられた。



長南町立長南小学校 (2019年)



シェアオフィス「SUZUMINE」



上総一宮観光案内所



ウェブサイト
「サーフィンと生きる町。
ICHINOMIYA」

一宮版サーフォノミクス

年間60万人¹の観光客が訪れる一宮町では、海岸の全域にわたって良好なサーフポイントが存在するロケーションや地元に基づくサーフィン文化などの特徴を地域活性化に生かすため、2015年10月に策定した「一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、「一宮版サーフォノミクス」²を打ち出した。

一宮版サーフォノミクスは、海沿いの文化と豊かな自然、上総国一宮としての伝統を享受し、ゆとりある住宅環境や働く場を創出することで町の魅力に磨きをかけ、新たな人たちを呼び込む好循環を生み出すための仕組みである。一宮町ではこのプランに基づいて海岸から県道30号線に沿ったエリアを「サーフストリート」と位置づけ、同エリアをブランディングするとともに、JR上総一宮駅西側エリアの中心市街地としての機能を強化し、さらに駅周辺と駅東側のサーフストリートを結ぶための都市軸を整備して町全体の活性化を図ることとした。

一宮町では、まずサーファーにアンケート調査を行い、集まった意見や要望をもとにサーフスポットの駐車場舗装やシャワーの設置などの整備を実施。

2017年7月には、サーフストリートの経済効果を駅周辺に波及させるために、商店街の空き店舗を改修してサーフィンと仕事を楽しむシェアオフィス「SUZUMINE」をオープンし、飲食店、シャワーやサーフボードの保管庫、中庭ウッドデッキなども整えた。2018年4月には、駅前の上総一宮観光案内所をリニューアルオープンし、「サーフィンと生きる町。」を掲げ、レンタサイクルやサーフボードの貸し出しを開始した。

また、「一宮版サーフォノミクス」の一環として、一宮町の魅力を発信するため、ウェブサイト「サーフィンと生きる町。ICHINOMIYA」を開設し、サーファー100人にアンケートを取って作成したプロモーションビデオなどを掲載している。一宮町では、こうした事業を通じて、東京2020大会終了後もサーファーを主とした若者や子育て世代が定住し続けるような魅力あるまちづくりを目指している。

▶1 2015年の「一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に先立って行われた調査による。

▶2 サーファーが集まることによる経済効果

2

成田空港の利便性向上と受け入れ環境整備

成田空港の利便性の向上と交通ネットワーク等の強化

東京2020大会を目標として「訪日外国人旅行者数4,000万人」を目指す取り組みが全国で進められる一方、千葉県は、「成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化」を東京2020大会に向けた戦略として掲げ、受け入れ態勢の整備を進めた。成田空港では、2015年3月に年間発着枠が27万回から30万回へ拡大され、同年4月にはLCC（格安航空会社）向けの第3旅客ターミナルビルの供用が開始されるなど、大きな転換点を迎えていた。千葉県は、こうして成田空港を利用する人や物の増大が予想される中、その人と物の流れを県内へ取り込むことによる経済の活性化を目指し、利便性の向



LCC専用ターミナルへの導線（成田国際空港㈱提供）

上のための各種施策を推進。2015年3月30日正午にはノンストップゲート化¹を実現し、警備レベルを維持しつつ利用者の利便性・快適性の向上を図った。また、四者協議会（国土交通省、千葉県、空港周辺9市町、成田国際空港㈱）での合意を経て、2019年10月から、騒音・環境対策を実施した上で、A滑走路の発着時間を「6時～23時」から「6時～0時」へ1時間延長。2014年4月から2019年10月にかけて、成田空港における国際線就航都市数が100から118に、国内線就航都市数が15から22に増加した。

さらに、成田空港に降り立った選手や観光客が、ストレスを感じることなく移動できるよう、鉄道・バスのさらなる利便性の向上を図るとともに、東京湾アクアラインと一体となって首都圏の高速道路ネットワークを構成し、首都圏の各都市と成田空港を結ぶ「圏央道」（首都圏中央連絡自動車道）の整備促進に取り組み、2020年2月には圏央道茂原長柄スマートインターチェンジが開通した。

▶1 検問による警備レベルと同等の警備を保ちつつ、空港利用者の利便性の向上を図るため、高度機械警備システム等の導入・整備により、利用者がスムーズに入場できるよう検問方法を変更すること



成田空港LCC専用ターミナル（成田国際空港㈱提供）

成田空港のユニバーサルデザイン化

成田空港は、東京2020大会を飛躍、発展のチャンスと捉え、将来を見据えた機能強化やさらなる利便性・快適性向上につなげるため、安全対策等に加えてユニバーサルデザイン（UD）を取り組みの柱の一つに据え、国や千葉県、東京2020組織委員会などと連携してバリアフリー化を進めた。

2017年度には、障害者、有識者、空港関係者などで構成される「成田空港UD推進委員会」を設置し、当事者（障害者）による現場視察等を踏まえて空港における課題を明確にした上で2018年度に基本方針を策定。具体的には、2018年度に「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」^{▶2}への対応として、空港ターミナル内主要動線におけるエレベーターの増設・機能増強（第1、第2ターミナル各2カ所）を実施し、また同年度から2020年の初めごろ

までに、搭乗ゲート付近に18カ所の車いす等運搬用のエレベーターを設置した。

また、2018年度から2019年度にかけては、第1、第2ターミナルの大規模リニューアル（ターミナルのバリューアップ計画）に合わせ、誰もがわかりやすいように大型の案内サインの導入等を行うとともに、空間全体での明るさ感の確保や視認性向上のために、照明器具をLED化。併せて、第1から第3までの全ターミナルでトイレの全面リニューアルを実施し、音声案内、フラッシュライト（光警報装置）、L型手すりの設置、多機能トイレの機能分散、異性介助等へのニーズへの対応などを取り入れた。

さらに、成田空港では、障害に対する理解を深め、適切な接遇を行うため、ボランティアを含めた研修なども実施し、さまざまな角度によりユニバーサルデザインを推進した。



車いす等運搬用のエレベーター（成田国際空港(株)提供）



全面リニューアルを行ったユニバーサルデザインのトイレ（成田国際空港(株)提供）



大型の案内サイン（成田国際空港(株)提供）

交通機関のバリアフリー化と福祉タクシー、ノンステップバスの整備

千葉県内の各交通機関では、従前から進めてきたバリアフリーの取り組みを、大会を契機により一層促進するため、主要ターミナル等でも面的・一体的

▶2 障害の有無にかかわらず、すべての人々にとってアクセシブルでインクルーシブな大会を実現するため、東京2020組織委員会が、国の関係行政機関、東京都、関係地方公共団体、障害者団体等の参画を得て策定し、IPCの承認を得たバリアフリー基準等のガイドライン



ノンステップバス（千葉海浜交通(株)提供）



福祉タクシー

なバリアフリー化を進めた。また、各交通機関等には「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー法）に基づく基本方針において整備目標が定められ、1日の乗降客数が3,000人以上の旅客施設等では2020年度までに原則100%バリアフリー化することが求められたことを受けて取り組みを加速。2020年度までにさまざまなバリアフリー化を実施し、鉄道駅のほかにもノンステップバスや車いすでそのまま乗車できる福祉タクシーの拡充などを図った。

◆ ホームドア

2014～2020年度に3市4駅18線で設置

◆ エレベーター（利用者3,000人以上/日の駅での設置割合）

2014年度：92.2%（201/218）

→2020年度：96.8%（213/220）

◆ 内方線付点状ブロック（同1万人以上/日の駅での設置割合）

2014年度：36.3%（52/143）

→2020年度：99.3%（147/148）

◆ 福祉タクシーの整備

2017年度：1,014台（13.2%）^{▶3}

→2020年度：1,694台（22.5%）

◆ ノンステップバスの整備

2014年度：1,107台（51.3%）

→2020年度：1,490台（69.9%）

「千葉県バリアフリー観光サイト」の開設

2020年3月、千葉県は高齢者や障害者にも安心して快適な県内観光を楽しんでもらえるよう、観光施設等やモデル地域のバリアフリー状況を写真や数値などで紹介するサイトを千葉県公式観光物産サイト「まるごとe！ちば」内に新設した。サイトの開設にあたっては、利用者の目線で、車いすを利用している人と一緒に施設や地域を調査し、必要な情報を写真や数値などでわかりやすく掲載。多目的トイレなどのバリアフリー情報だけでなく、段差の高さや通路の幅などのバリア情報も正確に情報提供している。

観光客の受け入れ環境整備

東京2020大会を契機に、千葉県に訪れる観光客にも満足してもらえる魅力ある観光地になるよう、オール千葉でのおもてなし機運の醸成を図るとともに、受け入れ環境の整備に取り組んだ。

観光関連施設等の整備では、市町村などが行う観光公衆トイレや駐車場、観光案内板、観光案内所、公衆無線LAN環境の整備に対する補助を実施した。

また、観光・宿泊施設の経営者、従事者等を対象に、外国人観光客の受け入れや、快適なトイレ環境を保つためのトイレの管理方法等についての研修会を実施するなど、おもてなし力の向上を図った。

▶3 以下の（ ）内は全車両数に占める福祉タクシーおよびノンステップバスの割合



千葉県バリアフリー観光サイト



多言語観光案内板（成田市）



おもてなしトイレ
ひこうきの丘（芝山町）

◆ 観光関連施設等の整備状況（2014～2020年度）

| 観光公衆トイレ | 駐車場 | 観光案内板 | 観光案内所 | 公衆無線LAN |
|---------|------|-------|-------|---------|
| 234カ所 | 31カ所 | 421基 | 6カ所 | 400施設 |